

関西教育学会 シンポジウム「学習評価の問題点と課題」
「主体的・対話的で深い学び」と
パフォーマンス評価

2020年11月16日～22日
京都大学 西岡加名恵

<自己紹介>

- 教育方法学(カリキュラム論、教育評価論)
- パフォーマンス評価(パフォーマンス課題、ルーブリック)、ポートフォリオ評価法
アメリカやイギリスの調査、日本の学校の先生方と共同研究開発
大学では教員養成の仕事も担当(教育実習指導など)
- 京都大学大学院教育学研究科E.FORUMの講師と運営を担当
<https://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/>
- 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 児童生徒の学習評価の在り方に関するワーキンググループ(2009年6月～2010年3月)、育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会委員(2012年12月～2014年3月)、高等学校における「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」評価・推進委員会委員(2013年6月～2016年3月)、「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)支援事業の今後の方向性等に関する有識者会議」委員(2020年4月～)など

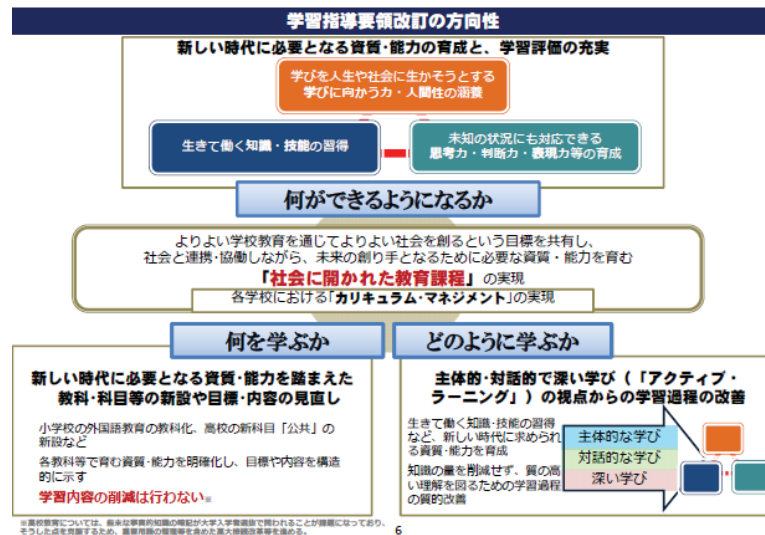
(1) アクティブ・ラーニング重視の方針

こうした状況も踏まえながら、今後、一人一人の可能性をより一層伸ばし、新しい時代を生きる上で必要な資質・能力を確実に育んでいくことを目指し、未来に向けて学習指導要領等の改善を図る必要があります。[中略] そのために必要な力を子供たちに育むためには、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習(いわゆる「アクティブ・ラーニング」)や、そのための指導の方法等を充実させていく必要があります。こうした学習・指導方法は、知識・技能を定着させる上でも、また、子供たちの学習意欲を高める上でも効果的であることが、これまでの実践の成果から指摘されています。

(文部科学大臣 下村博文「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(諮問)」2014年11月20日)

→**教科内容についての深い理解が抜けることへの懸念の声**

1. 2017・2018年改訂学習指導要領



(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現
←「アクティブ・ラーニング」の視点

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

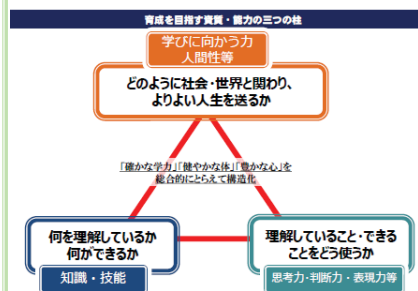
(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)

(3)「深さ」の3つの系譜

- 「深い学習」(学習への深いアプローチ)
→概念を自分で理解することを意図して、意識的にメタ認知や自己調整を行いつつ学ぶ。
- 「深い理解(understanding)」
→知識と知的操作の対応関係
(G・ウィギンズ&J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計』日本標準、2012年)
- 「深い関与(involverment, engagement)」
→熱中、没入、忘我の境地

(松下佳代「ディープ・アクティブラーニングへの誘い」松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編著『ディープ・アクティブラーニング——大学授業を深化させるために』勁草書房、2015年)

(4)「資質・能力」重視の方針と学習評価の充実



資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組みさせるパフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。さらには、総括的な評価のみならず、一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、子供たちの資質・能力がどのように伸びているかを、例えば、日々の記録やポートフォリオなどを通じて、子供たち自身が把握できるようにしていくことも考えられる。

(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)

2. パフォーマンス評価とは何か

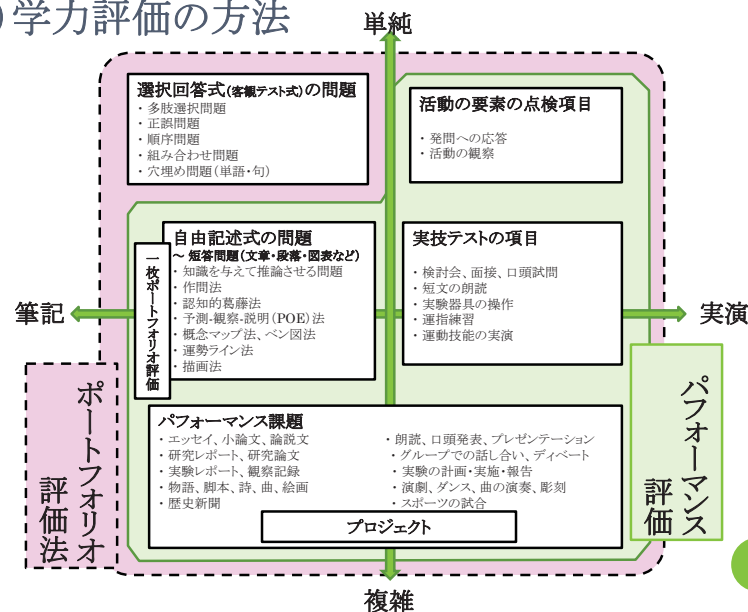
(1) パフォーマンス評価とは・・・

- 知識やスキルを使いこなす(活用・応用・総合する)ことを求めるような評価方法(問題や課題)
← 学力観の転換

(2) パフォーマンス課題とは・・・

- 様々な知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるような、複雑な課題。
- 具体的には、論説文やレポート、展示物といった完成作品(プロダクト)や、スピーチやプレゼンテーション、実験の実施といった実演(狭義のパフォーマンス)を評価する課題。

(3) 学力評価の方法



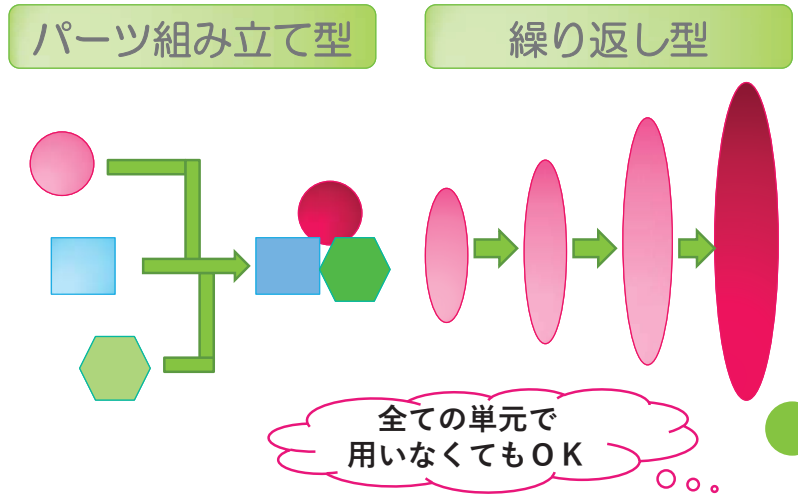
(西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年、p.83参照)

(4) パフォーマンス課題

次のような活動(や活動により生み出された成果物)を評価する課題

- まとまった文章を書く。
 - リーフレットを作る。
 - プレゼンテーションをする。
 - グループで話し合う。
 - 学んだ知識・スキルを応用して問題解決に取り組む。
 - 学んだ知識・スキルを用いて作品を作る。
 - 証明する。
 - 根拠を示しつつ主張を述べる。
 - 現象を説明する。
 - 実験を実施・計画・報告する。
 - 観察記録を書く。
 - 曲を演奏する。
 - パフォーマンスをする。
 - 試合をする。
 - 企画を立てる。
- など

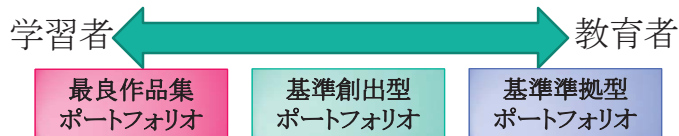
◎パフォーマンス課題の位置づけ方 — 単元内・単元間の構造



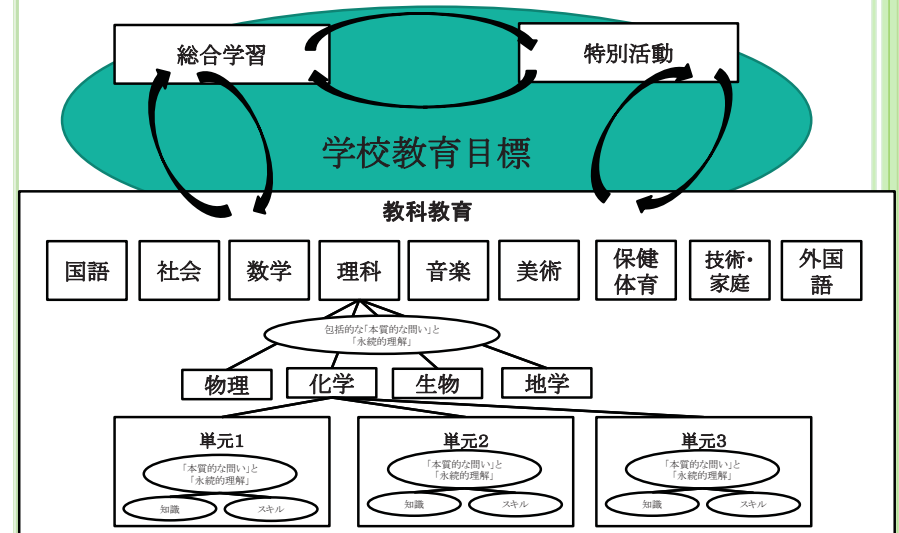
(5) ポートフォリオ評価法とは何か

- ポートフォリオ: 学習者(児童・生徒や学生)の作品や自己評価の記録、教師の指導と評価の記録などを系統的に蓄積していくもの
- ポートフォリオ評価法: ポートフォリオ作りを通して、学習者が自らの学習のあり方について自己評価することを促すとともに、教師も学習者の学習活動と自らの教育活動を評価するアプローチ

◎所有権 (Ownership): 収める作品や評価基準の決定権



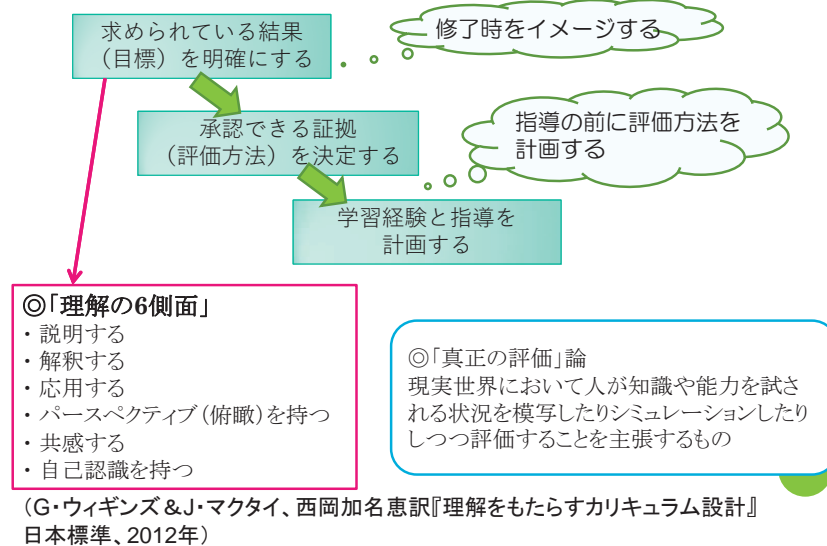
(6) カリキュラム全体の構造図



(西岡加名恵作成)

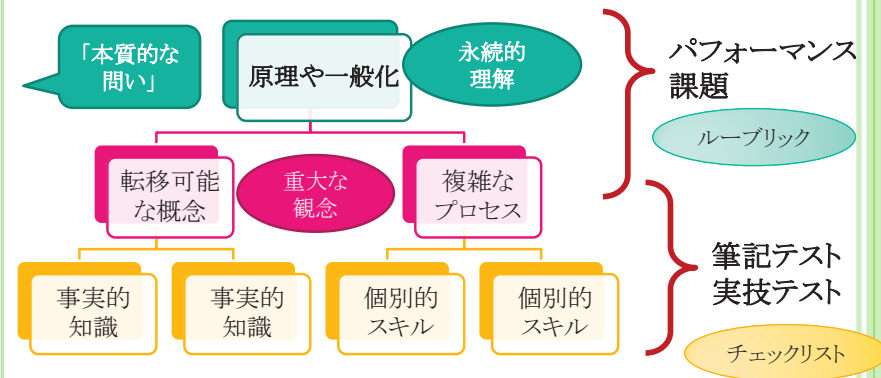
3. 教科教育におけるパフォーマンス課題

(1)「逆向き設計」論



13

(2)「知の構造」と評価方法・評価基準

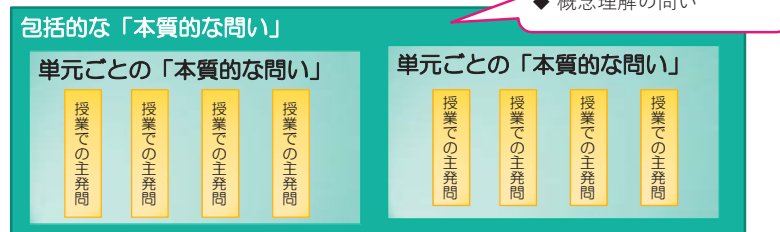


(西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計——パフォーマンス評価をどう活かすか』図書文化、2016年、p.82。McTighe, J. & Wiggins, G., *Understanding by Design: Professional Development Workbook*, ASCD, 2004, p.65の図や、Erickson, H.L., *Stirring the Head, Heart, and Soul*, 3rd Ed. Corwin Press, 2008, p.31の図をもとに西岡作成。G・ウィギンズ/J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計——逆向き設計』の理論と方法』日本標準、2012年も参照)

14

(3)「本質的な問い」

◎「本質的な問い」の入れ子構造



◎包括的な「本質的な問い」の例

国語・英語

- どのようにコミュニケーションをすれば良いのか？
- どのように書けば／読めば／話せば／聞けば／話し合えば良いのか？
- この○○の主題／教訓は何か？

社会、地歴・公民

- より良い社会(政治・経済)をつくるには、どうすれば良いのか？
- 人びとは、どのような地理的条件のもとで暮らしているのか？ それはなぜか？
- 社会は、どのような要因で変わっていくのか？

15

◎包括的な「本質的な問い」の例

数学

- 現実の問題を数学的に解決するには、どうすれば良いのか？
- どのように量を測れば良いのか？
- 自然や社会にある数量の関係を捉え、未知の数量を予測するにはどうすれば良いのか？

理科

- 自然の事物や現象は、どのような仕組みになっているのか？
- 科学的に探究するには、どうすれば良いのか？

音楽・美術

- 美とは何か？
- 様々なイメージや感情、思いやメッセージは、どのように表現すれば良いのか？

保健体育

- どうすれば、心身の発達と健康の保持増進を図ることができるのか？
- どうすれば、上手に運動できるのか？

技術・家庭

- どのように技術を用いればよいのか？
- どうすれば、より望ましい生活を創造できるのか？

16

◎「本質的な問い」の特徴

※教科の中核に位置する重要な内容を看破することを促すような問い

※「どのように～すればよいのか？」(方法論 ⇔ 手順)

※「～とは何か？」(深い概念理解 ⇔ 断片的な知識)

- 単純な一つの答えがない
(論争的、探究を触発、様々な深まり)
- 個々の知識やスキルが総合されていくような問い
- 様々な文脈で活用できるような問い(転移)
- 単元(科目)を越えて繰り返し現れるような問い
(再考を促す、転移、カリキュラムの系統性)
- 「だから何なのか？(学習の意義)」が見えてくるような問い
(学問の中核、生活・実践現場との関連性など)

17

(4) パフォーマンス課題の実践例

◎小学校・国語「クラブPR隊になって、3年生にクラブ活動の様子を伝えよう」



(京都市立梅小路小学校 山口信也先生の実践)

18

◎中学校・社会科

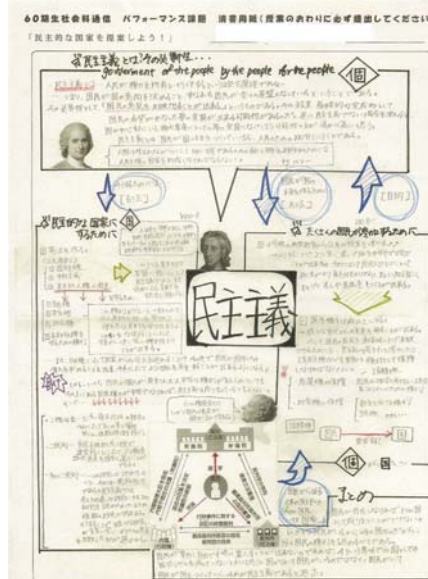
「民主的な国家を提案しよう！」

(三藤あさみ「検討会に関連づけて思考する力を育成する」西岡加名恵・田中耕治編著『活用する力』を育てる授業と評価・中学校』学事出版、2009年)

◎高等学校・英語科



※動画： 京都大学オープンコースウェアに掲載
(西岡「教育課程論Ⅱ」2014年10月23日)
<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ia/03-faculty-of-education-ip/13-9234001>
(京都府立東舞鶴高等学校 大槻裕代先生提供)



19

◎小学校・算数

- 高倉の地域には、いろいろな国の方が住んでいます。その方たちが高倉小学校に来られた時にわかるように、英語で「TAKAKURA」と看板をつくることにしました。ですが、色紙を何枚使えばいいかわかりません。色紙はたくさん買うと高いので、台紙に貼る色紙がどれだけ必要か計算することにしました。色紙が何枚必要かを5年2組の友達に分かるように説明しましょう。

TAKAKURA



(京都市立高倉小学校 谷口紗矢佳先生の実践。徳島祐彌「5年生算数科『面積』におけるパフォーマンス評価」『教育方法の探究』第21号、2018年)

20

(例) 課題:「意見文を書こう！」

「本質的な問い」

- ◎人に伝えるにはどうしたらよいか?
- 意見文を書くにはどうしたらよいか?

「永続的理解」

意見文を書くには、まず、自分が相手に伝えたい意見を明確にすることが重要である。また、より説得力をもって伝えるためには、根拠となるような事実と意見とを関連づけながら書くと良い。さらに、最初に相手を惹きつけるような工夫をし、最後に自分の意見を明文化して示すといった構成にすると、相手に伝わりやすくなる。

課題のシナリオの6要素

- 目的 (Goal) : ゴミ問題の解決をめざす
- 役割 (Role) : 4年生
- 相手 (Audience) : 学校の他の子どもたち
- 状況 (Situation) : 学んだことをもとに意見を伝える
- 作品 (Product, Performance) : 壁新聞の記事
- 観点 (Standard, criteria) : 意見が明確になっているか、説得力のある根拠が示されているか

4. ルーブリックづくりから指導の改善へ

(1) ルーブリックとは何か (ここではレベル2・4を省略)

| | 原理・一般化に関する理 | 観点 (分けなくても可) |
|---|--|-----------------------|
| 5 | 社会的な事象について、政治・経済・文化・地形などの構成要素から3つ以上の視点ができ、これらの視点を総合的に関連付けて分析し、最適で詳細かつ具体的な根拠をあげて、非常に説得力のある主張を組み立てることができる。 | 記述語 (基準と徴候) |
| 3 | 社会的な事象について、政治・経済・文化・地形などの構成要素から2つ以上の視点ができ、これらの視点を関連づけ、具体的な根拠をあげて明確な主張を述べる | |
| 1 | 経済・文化・地形などの構成要素から1つ以上の視点ができ、その中で1つだけ明確な主張を述べる | |

尺度
(数レベル程度)

アンカー作品を添付

(2) 特定課題ルーブリックの作り方

● テンプレート

| レベル | 作品NO | 記述語 |
|---------------|------|-----------------------------|
| 5 素晴らしい | | |
| 4 良い | | まず、作品NOの配置を確定する。 →アンカー作品 |
| 3 合格 | | |
| 2 もう一歩 | | チェックリストとの違いに留意する。 |
| 1 かなり改善が必要 | | |

①お互いの採点がわからないように、作品を採点する。

→付箋紙に作品番号とレベルを書く。



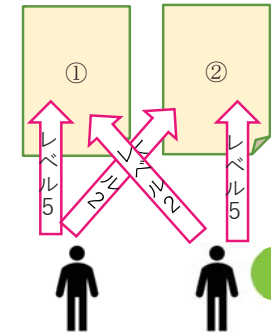
① Lv. 5

②似た評点がついた作品を集め、特徴について話し合う。

→まず、評価の（ほぼ）一致した作品について、レベルを確定。特徴を読み取って、記述語を作成。

→評価が分かれた作品について、検討。

→評価が入れ替わる場合に、観点を分ける。



(3) 指導の改善へ

◎ワークシート(三藤あさみ先生提供)

第一次世界大戦の学習を終えて、起きた要因を分析したワークシート



なぜ第1次世界大戦が起きたのか？
 (拡大したのか?)
 最も大きい要因は何か？

◎「模擬国際シンポジウム」



(三藤あさみ先生提供)

(4) 生徒作品の例



(三藤あさみ先生提供。西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年、pp.98, 107。三藤あさみ・西岡加名恵『パフォーマンス評価にどう取り組むか』日本標準、2010年も参照)



(5) 長期的な見通し

「本質的な問い」の入れ子構造

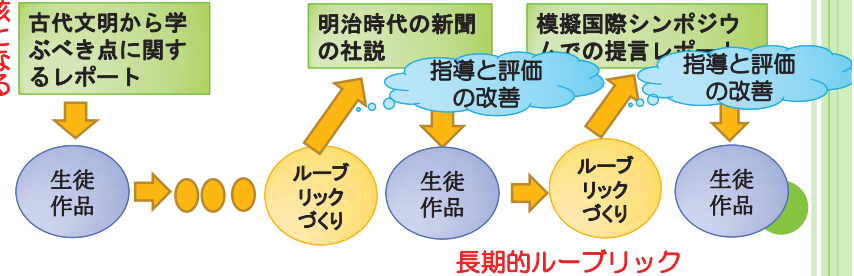
中学校社会（歴史）： 社会はどのような要因で変わっていくのか。どのように社会を変えていけばいいのか。

文明はなぜ生まれるのか。この時代の日本は他の文明から何を学ぶべきか。

明治維新によって日本社会はどのように変化したのか。明治維新後の日本において人々が幸福で平和に暮らせる社会を築くには、どうすればよかったのか。

戦争はなぜ起こるのか。戦争を起こさない平和な国を保つためにはどうしたらよいか。

核となるパフォーマンス課題



長期的ループリッブリ

(6) 学力評価計画の立て方

◎“三次元モデル”

| 観点 | 評価方法 | 単元1 | 単元2 | ... | 単元X | 単元Y | 総括的評価 |
|---------------|----------|-----|-----|-----|-----|-----|----------|
| 主体的に学習に取り組む態度 | | | | | | | |
| 思考力・判断力・表現力 | パ課題 | | ○ | | ◎ | | 到達レベル(質) |
| 知識・技能 | 筆記／実技テスト | ○ | ○ | | ○ | ○ | 到達レベル(量) |

類似の課題を少しずつレベルアップしながら繰り返し与える。

ループリッブリ

チェックリスト

CF. 国立教育政策研究所「学習評価の在り方ハンドブック」(2019年6月14日)

Q1 1回の授業で、3つの観点全てを評価しなければならないのですが。

A. 学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要です。したがって観点別学習状況の評価の記録に用いる評価については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要です。

評価時期の工夫の例

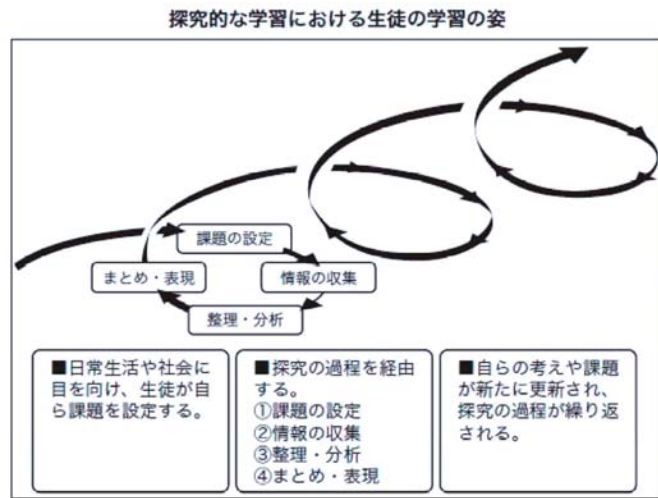
- 日々の授業の中では児童生徒の学習状況を把握して指導に生かすことに重点を置きつつ、各教科における「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価の記録については、原則として単元や題材などのまとまりごとに、それぞれの実現状況が把握できる段階で評価を行う。
- 学習指導要領に定められた各教科等の目標や内容の特質に照らして、複数の単元や題材などにわたって長期的な視点で評価することを可能とする。

観点別評価の評価時期

- 単元や題材のまとまりごと × 毎回の授業
- 複数の単元や題材などにわたって長期的な視点で評価することも可能

5. 「探究的な学習」とポートフォリオ評価法

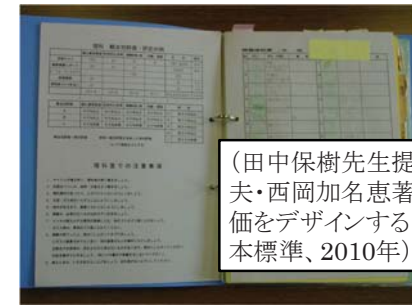
(1) 探究的な学習→「問題解決のサイクル」の繰り返し



(文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』2008年、p.16)

(2) ポートフォリオ

(宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年)



(田中保樹先生提供。堀哲夫・西岡加名恵著『授業と評価をデザインする・理科』日本標準、2010年)

◎京都大学教育学部の特色入試

<第1次選考>書類選考

「学びの報告書」「学びの設計書」

平成28年度京都大学特色入試
教育学部用

学びの報告書

氏名 _____

学部(学科) _____

以下各項目について、応募者自身が真のペンまたはボールペンを用いて正確に印刷用紙に記入し、提出してください。
【1】中学時代から現在まで取り組んできた学びの活動(社会科での学習や総合的な学習の時間、読書、調べ学習、学校行事での活動、ボランティア活動等)のうち、主なものを時間の経過に沿って記述してください。また、その成果を示す資料(活動写真、論文、研究発表資料、新聞記事等、いずれもコピーA4程度)を添付する場合は、対応する資料番号を明記してください。

| 時 間 | 活 動 内 容 | 資料番号 |
|-----|---------|------|
| | | |
| | | |



<第2次選考>

課題と口頭試験

<第3次選考>

センター試験

「様々な活動をまとめてみることで、活動の間にあつたつながりや自分の特長に気づきました」(大平優斗さん)、「自分が達成できたことや自分の価値観の変化にも気づき、将来、挑戦したいことを思い描くことができました」(小山田遥さん)

(3) ポートフォリオに残しうる様々な資料



(<https://www.irasutoya.com/>)

(4) 取り組む上でのポイント

- ① 学習者と教師で見通しを共有する。
 - なぜ、作るのか？ 意義は何か？
 - 何を残すのか？
 - いつ、どの期間で作るのか？
 - どう活用するのか？
- ② 蓄積された作品を、編集する(整理・取捨選択する)。
 - ワーキング・ポートフォリオからパーマメント・ポートフォリオへ必要な作品を移す。
 - 検討会で見せる作品を選ぶ。
 - 目次を作り、「はじめに」と「終わりに」を書く。
- ③ 定期的にポートフォリオ検討会を行う。
 - 見通しを持つ。
 - 到達点と課題、次の目標を確認する。
 - 成果を披露する。

45

(5) ポートフォリオ検討会



↑宮本浩子先生提供。宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編——「対話」を通して思考力を鍛える!』日本標準、2004年参照



西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也『教職実践演習ワークブック——ポートフォリオで教師力アップ』ミネルヴァ書房、2013年参照→

46

◎ポートフォリオ検討会での対話の例

(イメージ。大貫守氏作成の資料を参考にした。)

先生「山田さんは、ペットボトルロケットについて調べているんだよね。進捗はどうか？」

生徒「あんまり良く進んでいないんです。なんだか行き詰まっている感じで……。」

先生「どんなところに行き詰まっているのかな？」

生徒「ん～[しばらく沈黙。教師は待つ]。何をしたら良いのかよくわからなくなって……、ペットボトルロケットをただ飛ばしているだけのようで……。」

先生「山田さんは、テレビで見て、よく飛ぶペットボトルロケットが作れたら、エコな仕組みを考えられそう、と思ったんだっけね。今まで、どんなことに取り組んできたのかな？」

二人で研究ノートに書かれた内容について振り返る。

(西岡加名恵編著『高等学校 教科と探究の新しい学習評価』学事出版、2020年)

47

生徒「先行研究を読んでも、遠くに飛ばすために羽やペットボトルの形、羽の位置や空中での回転の仕方が影響すると書いてあるんですが、僕のロケットはいつも空中で水平飛行にならず、飛距離も出なくなってしまうんです。」

先生「山田さんは、何回もペットボトルロケットを飛ばしながら空中での機体の傾きや羽の形との関係について既にキチンとしたメモを残しているね。これは素晴らしいことだよ。どんな工夫をすれば、水平飛行になりそうかな？」

生徒「まずは、羽の位置と形かなあ……。でも、よく飛ぶって書いてある本を片っ端から見て羽の形は変えたりしているけど、よくわからなくなっちゃった。」

先生「羽の形を飛行機や鳥の翼、実際のロケットの仕組みを参考にしてみると面白いものができそうだね。なぜその羽の形や位置で良く飛ぶのかという仕組みを考えてみたらどうかな？ そのときには、ロケットの重心や回転にこだわってみてもよいかもしれないね。」

生徒「そういうことなら、何とかできそうかな。」

二人は話し合った内容についてメモを残す。

(西岡加名恵編著『高等学校 教科と探究の新しい学習評価』学事出版、2020年)

48

◎検討会の進め方

- ① 問いかけによって、学習者の自己評価を引き出す。
- ② 学習者の言葉に耳を傾ける(待つ)。
- ③ 達成点を確認し、いいところを褒める。
- ④ 具体例の比較を通して、目標・評価規準(基準)を直観的につかませる。
- ⑤ 次の目標について、合意する。
- ⑥ 確認された達成点と課題、目標についてメモを残す。

※一斉授業(作品批評会など)の形で行うのもOK

(6)SSH8校による「課題研究」の評価研究 ◎標準ルーブリックと指導方略

(西岡加名恵・大貫守「スーパーサイエンスハイスクール8校の連携による『標準ルーブリック』開発の試み」『教育方法の探究』第23号、2020年3月、pp1-12。
<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/250817>)

| 評価項目 | 評価の観点 | 評価の指標 | 評価の基準 | 評価の観点 | 評価の指標 | 評価の基準 |
|----------|---------|--------|------------|------------|---------|-------|
| 1. 課題の選定 | 研究の意義づけ | 課題の明確化 | 調査計画の立案と実施 | 情報収集と情報の評価 | 結果からの考察 | |
| | 研究の意義づけ | 課題の明確化 | 調査計画の立案と実施 | 情報収集と情報の評価 | 結果からの考察 | |
| 2. 調査計画 | 研究の意義づけ | 課題の明確化 | 調査計画の立案と実施 | 情報収集と情報の評価 | 結果からの考察 | |
| | 研究の意義づけ | 課題の明確化 | 調査計画の立案と実施 | 情報収集と情報の評価 | 結果からの考察 | |
| 3. 調査実施 | 研究の意義づけ | 課題の明確化 | 調査計画の立案と実施 | 情報収集と情報の評価 | 結果からの考察 | |
| | 研究の意義づけ | 課題の明確化 | 調査計画の立案と実施 | 情報収集と情報の評価 | 結果からの考察 | |
| 4. 結果の考察 | 研究の意義づけ | 課題の明確化 | 調査計画の立案と実施 | 情報収集と情報の評価 | 結果からの考察 | |
| | 研究の意義づけ | 課題の明確化 | 調査計画の立案と実施 | 情報収集と情報の評価 | 結果からの考察 | |

◎ワークショップ

午前中は黙々と論文を読む



各グループでルーブリックを作成する



生徒の事例を具体的な資料を示しつつ、報告する。



生徒の姿/つまずきと教師の指導を整理する。



<主要参考文献>

- ① 西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』図書文化、2003年
- ② G.ウィギンズ、J.マクタイ(西岡加名恵訳)『理解をもたらすカリキュラム設計——「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012年
- ③ 西岡加名恵・石井英真・田中耕治編著『新しい教育評価入門』有斐閣、2015年
- ④ 西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計——パフォーマンス評価をどう活かすか』図書文化、2016年
- ⑤ 西岡加名恵編著『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価——アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』明治図書、2016年
- ⑥ 西岡加名恵・石井英真編著『Q&Aでよくわかる! 「見方・考え方」を育てるパフォーマンス評価』明治図書、2018年
- ⑦ 西岡加名恵・石井英真編著『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価』日本標準、2019年
- ⑧ 西岡加名恵編著『高等学校 教科と探究の新しい学習評価』学事出版、2020年

質疑応答

常原拓先生からいただいた質問①

- 「深さ」の3つの系譜というお話を興味深く思いました。現場では「深い学び」のイメージが最も描きにくいと言われています。その鍵として「複雑なプロセス」というものがヒントになりそうなのですが、例えば学習者のどのような姿をもって「深い学び」に至ったと言えるのか、具体的に教えて頂きたい。

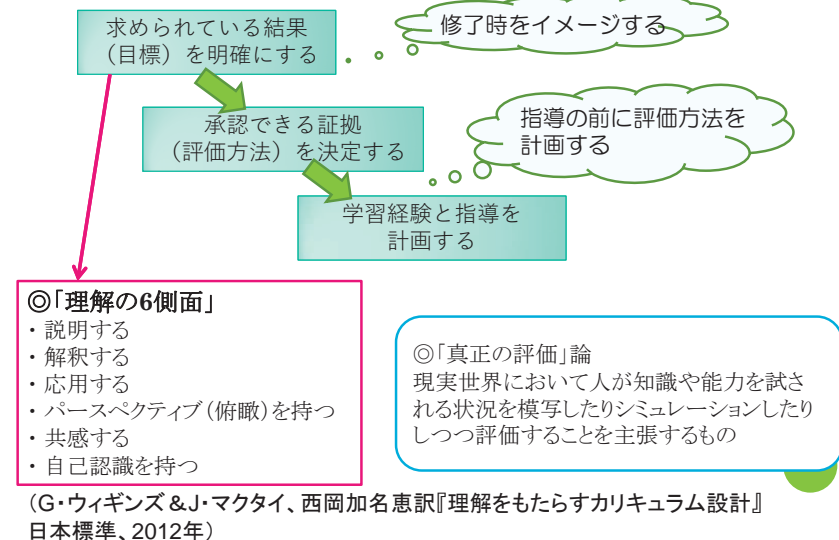
(4) 生徒作品の例



(三藤あさみ先生提供。西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年、pp.98, 107。三藤あさみ・西岡加名恵『パフォーマンス評価にどう取り組むか』日本標準、2010年も参照)



3. 教科教育におけるパフォーマンス課題 (1) 「逆向き設計」論



◎「逆向き設計」論でいう「理解の6側面」

| | | |
|----------------------------|---|-----------------|
| 洗練されており総合的な説明をする | ↔ | 素朴な説明をする |
| 洞察に富む解釈をする | ↔ | 文字通りの解釈をする |
| 見事な応用をする | ↔ | 初心者の応用をする |
| 洞察に満ちており、首尾一貫したパースペクティブをもつ | ↔ | 無批判なパースペクティブをもつ |
| 成熟した共感をする | ↔ | 自己中心的な共感をする |
| 賢明な自己認識をもつ | ↔ | 無知な自己認識をもつ |

(G・ウィギンズ&J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計』日本標準、2012年、pp.212-213)

57

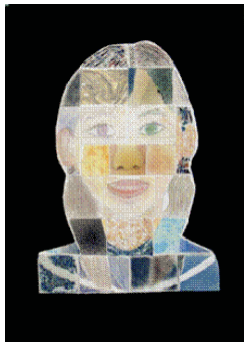
常原拓先生からいただいた質問②

- パフォーマンス課題の例として、中学校・美術科の『『真の自分』を発見し、表そう』というものが示されていたが、表現方法が多様な芸術的なパフォーマンスを評価していくときに気を付けることは何かお教え頂きたい。

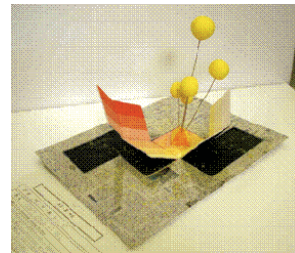
58

◎中学校・美術科 『真の自分』を発見し、表そう

(福岡教育大学附属福岡中学校・当時
武田巨史先生の実践)



題名「Don't Know At All」



←題名「私」

(西岡加名恵・田中耕治編著『活用する力』を育てる授業と評価・中学校』学事出版、2009年、p.97)



↑題名「閉ざされた心」

59

中川典之先生からいただいた質問①

- 子供の学びの質を高めるためには、自己評価の力を育てていく必要があると思います。自己評価力を高める手立てで有用な方法があれば教えてください。

60

◎自己評価力を身につけさせるための指導 作品批評会



(宮本浩子先生提供)



(宮本浩子先生提供。堀哲夫・西岡加名恵『授業と評価をデザインする・理科』日本標準、2010年参照)

◎「模擬国際シンポジウム」←相互評価



(三藤あさみ先生提供)

中川典之先生からいただいた質問②

- 1人1台の端末が神戸市でも今年度中に整備される予定です。1人1台の端末を活用したパフォーマンス評価には、どんなものがあるのでしょうか。

◎ICT活用

①情報の提示に用いる

②学習の成果の記録と再生に用いる

③思考ツール*のアプリを活用する

(徳島祐彌「ICT活用とパフォーマンス評価」西岡加名恵・石井英真編著『「見方・考え方」を育てるパフォーマンス評価』明治図書、2018年、pp.127-137.)

*田村学・黒上晴夫『考えるってこういうことか！「思考ツール」の授業』小学館、2013年

◎小学校・理科「白い粉を分離しよう」

- 今流行のパンケーキを作ろうとして、小麦粉と砂糖を混ぜるところを、間違えて小麦粉と食塩を混ぜてしまった。食塩だけを取り出すためにはどうしたらよいだろうか。取り出し方を考えたうえで、実験してうまくいくかどうかを確かめ、長野先生に教えてあげましょう。

(長野健吉先生の実践。課題文には一部加筆した。大貫守「パフォーマンス評価とICTを用いた理科の授業設計に関する一考察——単元「もののとけ方」の事例に着目して」京都大学大学院教育学研究科教育方法学講座『教育方法の探究』第18号、2014年、pp.21-28)



(長野健吉先生の実践 小学校5年生理科「もののとけ方」
YouTube「【ロイノート・スクール授業実践】パフォーマンス課題 小学校 理科」
[<https://www.youtube.com/watch?v=oG4u5dPo5Kc&t=3s>]4:59、6:52より引用)

Cf. 長野健吉「6年社会 パフォーマンス課題を解決しよう」樋口万太郎・堀田達也編著『やってみよう！ 小学校はじめてのオンライン授業』学陽書房、2020年、pp.100-103。

https://www.youtube.com/watch?v=gI_95SGau7M も参照。